

事業初期の意思決定実現

エイト日本技術開発 迅速な災害対応にも有効



エイト日本技術開発（EJEC）は、全天球（360度）カメラで撮影した写真に3次元モデルを組み合わせてプレゼンテーションができる新システム「Eye—Con360」を開発した。点群データではなく360度写真を活用するため容量が小さく、発注者など関係者との意思決定がプロジェクトの初期段階から可能となり、BIM／CIMの進化を実現する。特に迅速な対応が求められる災害時に有効なコミュニケーションツールとしても期待される。2025年度からの本格運用を目指している。

新システムは、機能性ファイルの総合メーカーでデジタル写真測量や3次元解析などを手掛ける「きもと」と共同

開発した。EJECがアイデアと構成、きもとがAPP（アプリケーション）を担当した。

BIM／CIMの普及が進む中、モデル作成時に使われる点群データの操作は、容量が大きいため、高性能パソコン（PC）や適切な3次元ソフトウェア、さらには専門的な知識が必要とされている。360度カメラを使った新システムは、小さなファイルデータで構成された画像データにビューワー機能と3次元モデルを付加する。これにより、

全天球写真に3D CADモデルを投影

点群データ使用時の保管と共有の課題を解消し、これまで建設プロセスの中盤以降に実施されていた関係者との意思決定が、プロジェクトの初期段階から簡単に行えるようになる。また、新システムは、無料ビューワー版で納品が可能となり、特別なアプリや高性能PCがなくても誰でも確認することができるなど、プロジェクト効率化のさ

らなる加速が期待される。時間を要する災害査定では、既存モデルを活用して復旧初期計画を立てられる。新システムを活用すればモニタリングを数分で行うことも可能となり、災害現場でのコアなコミュニケーションを図るツールとなる。場所ごとに360度撮影しておけばストリートビューのような感覚で現地を確認することができる

という。そのほか、予備設計段階で何案にもなる計画をBIM／CIM風にプレゼンテーションできるほか、仮設計画で1次施工からの各段階施工を3次元で確認できる。また、仮設備計画（道路使用、河川使用など）で各申請時の管理者などへの説明・申請を3次元化できるなどさまざまなシーンで活用できる。

